

新たな時代の大学教育とは — 自ら学び続ける力を育てるために —

日時

令和元年6月5日（水）
合同教授会・短大教授会終了後（約60分）

場所

公江記念講堂

昨年、文部科学省より、今後20年を見据えた高等教育の将来構想として「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」が公表されました。そこでは、予測不可能な時代を生きる人材の養成に向けて「個々人の可能性を最大限に伸長する教育」と「学修者が“何を学び、身に付けることができるのか”を明確にし、その成果を学修者が実感できる教育」への高等教育の転換の必要性が述べられています。

また、第3期に入った認証評価においても、学修成果の可視化とそのチェック機能である内部質保証システムの構築が最重要視されています（本学は令和4（2022）年度に受審予定）。

そこで、教育研究の連携協定を昨年締結した関西大学より、教育推進部教授の森朋子教授を講師としてお招きし、教育改革講演会を開催いたします。人の学びのメカニズムとプロセスを解明する学習研究がご専門であり、文部科学省中央教育審議会臨時委員も務められている森教授より、これからの大学教育が果たすべき役割についてお話しいただきます。

本学では「教育目標実現に向け、自立した学生を社会に送り出すため、主体性・論理性・実行力を培う女子教育に教職員一丸となって取り組みます。」という教育推進宣言を掲げて取り組みを進めてきました。学院創立80周年を迎えた今、来るべき時代に向けて、大学や教員はどのような教育を行うべきかについて、大切なポイントを伺いながら本学が目指すべきグランドデザインを考えたいと思います。先生方だけではなく、職員の皆さんもぜひご参加ください。事前の申し込みは不要です。



関西大学 森 朋子 教授
教育推進部

■ 研究分野（領域）

学習研究・学習科学・教育方法学

■ 所属学会

教育心理学会・教育工学会・大学教育学会・質的心理学会

● 講師プロフィール

ケルン大学哲学部Magister修了後、大阪大学にて言語文化学博士を取得。島根大学教育開発センター准教授を経て、2016年より関西大学にて教授を務める。専門は、学習研究・学習科学・教育方法学。近年はアクティブ・ラーニングの学びを中心に研究を行っている。現在、文部科学省中央教育審議会臨時委員（大学分科会）、同 学生調査の実施に関する有識者会議委員、同 教育再生加速プログラム委員東京、大学情報学環反転学習社会連携講座フェローなどを兼務。

著書として、『アクティブラーニング型授業としての反転授業【理論編】』（共編者、ナカニシヤ出版、2017年）、『アクティブラーニングの技法・授業デザイン』（共著、東信堂、2016）、『ディープ・アクティブラーニング』（共著、勁草書房、2015）などがある。